

(様式第7号)

大阪府高校生留学支援金留学報告書

2014年8月19日

学 校 名		支 援 金 交 付 年 度	2013 年度
氏 名	H24		
留 学 期 間	平成 25年8月16日 ~ 26年6月25日		
留 学 先	国 名	学校名	Tikkurilan lukio
専 攻	普通科		

留学中の生活、留学の成果、留学で得たことをどのように活かすか、これから留学する人へのアドバイス等について2000字以上で記入してください。

〈留学中の生活〉

学校は月曜日から金曜日までです。自分の取りたい授業を組み合わせで時間割を作るので学校に行く時間、帰る時間は日によって変動します。部活動はほとんどないので遅くとも4時半には学校はがらがらになります。夜になると学校の教室が市民を対象にした特別授業が開かれており、私も日本語のクラスの手伝いをしていました。早く授業が終わる日は図書館に通ってフィンランド語や受験勉強をしたり、ヘルシンキの町を散策したりしていました。高校生以下は美術館への入館が無料なので高校生の時に留学するならぜひ一回、てみるべきだと思います。休日は友達とヘルシンキに遊びに行き、買い物や観光、趣味の写真撮影をしていました。家族とゆとり休日を過ごす時もあり、私たちはよく映画を観ていました。フィンランドでは映画を観るにいくと曜日によっては日本の倍の価格になることもありますが、DVDやブルーレイは比較的安いので家で映画を観る人が多いです。日本の映画を字幕付きで観て解説するのも楽しかったです。年が明けると1月は冬休み、2月はスキー休み、3月はイースター5月はメデー (Vappu) 6月は夏休みとほとんど毎月休みにか

イベントがあります。私は休めを利用してよく旅行をしていました。1月はスウェーデン、2月はラップランド(北極圏)、3月はフィンランド中部のヤコブスタッドなど。北欧内でもお国柄や景色が大きく違っており、同じフィンランドでも地方ごとの方言や性格が異なっていたので、留学先の一点に止るとはまるのではなく、近場でも動いてみると新しい発見がありました。

5月にはKodinkuvalehtiという衣食住を取り扱う月刊雑誌の取材を受けました。日本文化や食について話し、親近感のレシポを紹介しました。会ったことのない人にも広く日本を紹介でき、取材されるのも初めてだったので貴重な経験になりました。6月以降は夏休みを利用して様々なことをしました。友達とハルシンキで屋台を開くことのできるイベントに参加し、寿司屋を開店したこともあります。最低限の人手で作ることが開店の条件だったため、みんなで寿司を朝まで作り続けました。私たちの屋台ではじめて寿司を食べた人もいました。その他には友人を誘って電車でフィンランドを旅したり、サマーコテージでゆったりと日々を過ごしたりしました。

### ＜留学の成果＞

屋台を経営したことから商学や貿易に興味をもつようになり、ました。実際に異文化のものを現地に適応させることは難しいですが、新しいものに挑戦したいと考える外国人は「けど」なく、保守的な味覚をもつ人々にも喜んでもらう寿司を考案することは興味深くやりがいを感じたからです。大学で専攻したいこと見つけたことは、将来を決める一つの材料になると思っています。語学に関しては、日常会話に問題はなくなり、フィンランド語での会話が楽しくなってきたころに帰国だったので残念でした。英語は話し慣れてよどみなく喋れるようになりました。留学生同士の友達も多くでき、フィンランドだけでなく色々な国を知り、他の国にも興味がわいた

□上記の内容については、公表される場合があることを了承します。  
(申請者が☑してください。)

→  
裏にフック

ので次はスペイン語を学び南米に行ってみたりと考えています。  
これはスペイン語話者の留学生たちは英語よりスペイン語を  
話し、あまりコミュニケーションを取れず"大変だ"と思ったから  
です。今まで内向きだった私が見たことのない世界に  
触れることで、このように次々と関わりをもち何事もやってみたり  
と思えるようになったことが"一番の成果だ"と思います。

### <アドバイス>

言語はフィンランド語、英語の両方に言えることですが、  
ボキャブラリーを増やすことを第一に考えるべきだと思います。  
そのあとはいたらう言語して現地の人の真似をしていくのが  
早いと達につながります。学校では高校でもプレゼンテーション  
やレポートの課題も多々、苦勞することがありました。  
言語だけでなく、学ぶテーマについての問題意識や自分の  
意見を、はっきり持ち伝える力が必要です。あまりレポートを  
書いたり人前で発表することに慣れていなければ"練習  
しておくのもいい"と思います。

私は受験生だったので、学年が早く終わった日で図書館で  
勉強していました。もちろん留学にきたからには現地で  
生活を優先するべきですが、空き時間があるならば"日本  
の勉強もしておいた方がいい"です。やはりある程度  
帰ってからのことを考えておかないと後からしんどくなります。  
何事も誘われるのを待つだけでなく、自分から積極的に  
行動を起こす事が留学という限られた時間を密度が濃く  
有意義に過ごすことだと思います。まずはコミュニケーションの  
きっかけとして日本文化を紹介すること一つの手です。  
そのために私は浴衣の着付けや日本食の作り方を覚えて  
いきました。

留学生がその国の文化に馬喰れていけないのは当たり前なので  
はじめの方の失敗は大胆に見てもらえることが"月日がたてず。  
失敗が許されるうちにたくさん失敗して学んでいく方がいいので  
恥じず"かきながらなんでも積極的に体験しようとする姿勢が  
大切だ"と私は思います。

留学先では国籍が違っても一生付き合っていける友達ができ、  
日本の家・家族のありがたさも改めて実感しました。留学に行くと  
本当によかったです。皆さんも素晴らしい留学をつくりあげてください。